

Nara National Museum

奈良国立博物館

だより

第 **111** 号

令和元年 10・11・12月



礼服御冠残欠（葛形裁文・鳳凰形）（正倉院宝物 北倉）

特別展

御即位記念
第71回 正倉院展
10月26日(土)～11月14日(木)
東・西新館

特別陳列

おん祭と春日信仰の美術
〔特集〕 春日社にまつわる絵師たち
12月7日(土)～令和2年1月13日(月・祝)
東新館

特別陳列

重要文化財
法隆寺金堂壁画写真ガラス原板
—文化財写真の軌跡—
12月7日(土)～令和2年1月13日(月・祝)
西新館

特集展示

新たに修理された文化財
12月24日(火)～令和2年1月13日(月・祝)
西新館

名品展

珠玉の仏教美術
12月7日(土)～令和2年1月13日(月・祝)
西新館

珠玉の仏たち
通期開催 なら仏像館

中国古代青銅器
通期開催 青銅器館

特別展 御即位記念

第71回 正倉院展

10月26日(土)～11月14日(木)

令和の時代を迎え、初めての開催となる今年の正倉院展には、北倉十四件、中倉八件、南倉十七件、聖語蔵二件の四十一件の宝物が出陳されます。そのうちの四件は初出陳です。正倉院宝物の全体像がうかがわれる構成となっておりますが、天皇陛下の御即位を記念し、正倉院宝物の成り立ちと伝承に関わる宝物や、宝庫を代表する宝物が顔を揃えることが特筆されます。また、シルクロードを通じて伝えられた国際色豊かな文化が反映された宝物や、世界各地の珍貴な材料を用いた宝物など、正倉院宝物の醍醐味を味わうことのできる内容となっております。

これに加え、今年が即位に関する宝物も注目されます。礼服御冠残欠は、天皇の即位に先立って行われた礼服御覧の儀式に用いられたことのある品です。ここには聖武天皇、光明皇后、孝謙天皇の冠が一部に含まれると考えられ、残欠となった今も高貴な趣を湛えております。

また衲御礼履は、礼服御冠残欠に含まれる冠と同じく大仏開眼供養に際して聖武天皇によって用いられたと考えられるもので、鮮やかな色合いや珠玉を用いた装飾が目を引きます。

ところで、袈裟付木蘭染羅衣は右肩の背面に方形の裂が付く特異な形状で、同様の衣が奈良・唐招提寺の鑑真和上坐像(国宝)に見出されることから僧侶の衣との説も有力ですが、垂領で大袖の形式は礼服の形式とされ、染め色も律令に規定された皇太子の礼服の色に通じております。右衽の裏には「東大宮」の墨書の認められた付箋があり、興味が惹かれます。

このように御即位を記念する展示に相応しい宝物の数々を会場でご覧いただき、我が国の伝統文化に対する理解を深める機会としていただければ幸いです。



漆胡樽



袈裟付木蘭染羅衣



紺玉帯残欠



衲御礼履



礼服御冠残欠(花形)

特別企画

正倉院展

ポスター

平成をふりかえる

9月10日(火)～11月17日(日)
会場/地下回廊 観覧無料



第71回 正倉院展ポスター(平成元年)

正倉院展では、まだ「正倉院展」という名称が確立していなかった第二回目となる昭和二十二年(一九四七)以来、展覧会を告知するポスターが製作されてきました。当時の世相や印刷・デザイン技術等を反映したポスターからは、その時代の空気が感じ取られます。

その年々の顔となる宝物を取り上げたポスターをご覧いただき、正倉院展の思い出とともに、「平成」をふりかえっていただければ幸いです。

特別陳列

おん祭と春日信仰の美術

―特集 春日大社にまつわる絵師たち―

12月7日(土)～令和2年1月13日(月・祝)

春日若宮おん祭は、春日大社の摂社である若宮社の祭礼で、平安時代の保延二年(一一三六)に始まったとされ、今年で八八四年目を迎えます。おん祭では、若宮神が御旅所(おたびしよ)に一日だけ遷座(せんざ)されますが、そこに芸能者や祭礼の参加者が詣(もつ)でる風流行列(ふうりゅうぎょ)が有名です。

本展覧会はおん祭の歴史と祭礼を展示し、あわせて春日大社への信仰の美術を紹介する恒例の企画です。本年は、春日大社にまつわる絵師を特集し、中世から近世にかけてさまざまな絵師によって描かれたおん祭の祭礼図を紹介するとともに、同じ頃、春日大社の御造替(ごぞうたい)にかかわった絵師にスポットをあてます。



競馬図衝立(奈良 春日大社)



春日若宮御祭礼絵巻 上巻(奈良 春日大社)

特別陳列

重要文化財

法隆寺金堂壁画写真ガラス原板

―文化財写真の軌跡―

12月7日(土)～令和2年1月13日(月・祝)

十九世紀前半に実用的な写真技術が発明されて以来、文化財は主要な被写体であり続けました。わが国でも、明治四年(二八七二)に旧江戸城が撮影されたことにはじまり、翌年の壬申検査(じんしんけんさ)(わが国初の文化財調査)でも数多くの宝物や建物が写真におさめられました。

昭和十年(一九三五)には、文部省の国宝保存事業の一環として法隆寺金堂壁画(どうきが)の原寸大分割写真が撮影され、巨大壁画の精緻な記録作成に成功しました。昭和二十四年(一九四九)の火災により壁画は惜しくも損傷をまぬがれませんでした。写真は往時(むかし)のかがやきを伝える存在として貴重です。平成二十七年(二〇一五)にはこれらの写真の歴史的・学術的価値があらためて評価され、国の重要文化財に指定されました。

この展覧会では、近代以降に多くの人びとが文化財の写真撮影に精力を傾けた軌跡を振り返ります。



◎法隆寺金堂壁画写真ガラス原板のうち第八号壁 阿弥陀如来像(奈良 法隆寺)

仏師快慶の実像を追い求めて ―特別展「快慶」の成果をふまえた大型図録の出版―

当館学芸部主任研究員 山口 隆介

平成二十九年（二〇一七）春、奈良国立博物館で特別展「快慶 日本人を魅了した仏のかたち」を開催した。運慶と並び称されてきた、わが国を代表する仏師快慶を単独で取り上げた初の特別展であり、世に知られる快慶作品の約八割が一堂に会した。さらに、アメリカの美術館が所蔵する三件四点の作品が里帰りを果たすなど、所蔵者をはじめ多くの方々のお力添えにより史上空前の内容が実現した。

会期中には、等身大までの木彫立像が調査可能な大型文化財用X線CTスキャン装置が導入された。CT調査は、従来のX線透過撮影に比べて木取りや木寄せの方法を詳しく知ることができる。像内納入品の形状や納入状況も詳細かつ立体的に把握することができる。快慶が生涯に数多く手がけた像高三尺（約九〇cm）の阿弥陀如来立像のうち奈良・光林寺像〔図1〕は、X線撮影では像内に縦長の物体がぼんやりと写る程度だったが、CT調査により体部に巻子状の品一巻（直径約二・七cm、長二〇cm）を納入していることが確認された〔図2〕。さらに複数の阿弥陀如来像をCT調査した結果、初期作品では左体側部に別材を削いでいたが、ある時期から左体側をふくむ頭体幹部を一枚から彫出する合理的な木取りを行うようになったことも判明した。快慶の仏像制作におけるノウハウが、次第に明らかになってきた。



〔図1〕 阿弥陀如来立像（奈良 光林寺）



〔図2〕 同 体部垂直断面(3D)

展示会は盛況のうちに幕を閉じ、所蔵者への作品返却を終えたころには、夏の展示会の開幕が目前に迫っていた。日々の業務に追われ、特別展「快慶」は過去のものになりつつあったが、一方でわたしのもとには「展示会で得られた成果を広く公表してほしい」という声が研究者のみならず一般の方からも寄せられた。CT調査に関しては、一部を研究者向けに報告したものの（山口隆介「快慶と工房制作―快慶展の知見をふまえて―」『研究発表と座談会 仏師とその工房をめぐる諸問題』公益財団法人仏教美術研究上野記念財団研究報告書四十五、二〇一九年）、多くの人の目に触れるかたちで成果を公表するにはどうするのがよいのか、その方法を模索していた。

かつて当館では、展示会が終わると、その後数年をかけて未出陳の作品をくわえ、図版の充実を図り、最新の知見を盛り込んで大型図録を出版していた。『観音菩薩』（同朋舎出版、一九八一年）、『仏舎利の荘嚴』（同上、一九八三年）、『日本仏教美術の源流』（同上、一九八四年）、『法華経―写経と荘嚴―』（東京美術、一九八七年）、『仏教説話の美術』（思文閣出版、一九九六年）などには、歴代研究員の活発な研究活動の成果が結実している。B4サイズの大型図版は、作品の迫力や細部の美しさを余すところなく伝え、収録論文や作品解説では展示会で得られた最新の知見が披露されている。これらの大型図録から多くを学んで、今回も研究書としてのみならず、鑑賞のたのしみも広がるような書籍の刊行を目指すことにした。

展示会の際には、信仰上の理由や保存状態の問題で出陳が叶わなかった作品もあったが、このたびの学術出版の意義を多くの所蔵者をご理解くださり、あらためて調査撮影の機会が与えられた。目下、高精度デジタルカメラを用いた写真撮影やCT調査を鋭意進めているところである〔図3〕。快慶作品に関する情報を網羅した資料集としての充実も大切だが、なによりも当館の写真技師が撮影した明瞭な写真を軸として、快慶芸術のすばらしさを実感していただける一書に仕上げたいと思う。刊行は令和三年（二〇二二）の予定である。



〔図3〕 和歌山・光善院阿弥陀三尊像の撮影風景

出陳一覽

名品展

珠玉の仏たち

10月8日(火)～

なら仏像館

彫刻

〔第1室〕

- 如来立像 当館
- 藏王権現立像 当館
- 如来立像 当館
- 地藏菩薩立像 当館
- 阿弥陀如来立像(裸形) 当館
- 狛犬 当館

〔第2室〕

- 舞楽面 胡徳楽 手向山八幡宮 個人
- 舞楽面 還城楽 個人
- 二天王立像 室生寺

〔第3室〕

- 宝冠阿弥陀如来坐像 安楽寿院 当館
- 阿弥陀如来坐像 当館
- 阿弥陀如来坐像 金剛寺 当館
- 阿弥陀如来立像 当館
- 阿弥陀如来立像 個人
- 阿弥陀如来立像 個人

〔第4室〕

- 伎楽面 崑崙 東大寺
- 伎楽面 力士 東大寺
- 伎楽面 醉胡王 東大寺
- 伎楽面 醉胡徒 東大寺
- 伎楽面 醉胡徒 東大寺

〔第5室〕

- 誕生釈迦仏立像 正眼寺
- 誕生釈迦仏立像 個人
- 誕生釈迦仏立像 当館
- 誕生釈迦仏立像 当館
- 誕生釈迦仏立像 当館
- 如来立像 当館

〔第6室〕

- 菩薩立像 法起寺
- 菩薩立像 興福院
- 菩薩半跏像 神野寺

- 観音菩薩立像 法隆寺
- 観音菩薩立像 観心寺
- 観音菩薩立像 金剛寺
- 如来坐像 当館
- 誕生釈迦仏立像 個人
- 二仏並坐像 当館
- 菩薩立像 個人
- 十一面観音菩薩立像 個人
- 力士立像 個人

- 如来立像 光明寺
- 如来立像 当館
- 釈迦如来坐像 園城寺
- 藏王権現立像 当館
- 誕生釈迦仏立像 薬師寺
- 不動明王立像 当館
- 勢至菩薩立像 当館

- 阿弥陀如来立像(裸形) 浄土寺
- 広目天立像 興福寺
- 多聞天立像 当館
- 如来三尊像 当館
- 如来三尊像 個人
- 如来立像 当館
- 十一面観音菩薩立像 薬師寺
- 如意輪観音菩薩坐像 当館
- 吉祥天立像 法明寺
- 阿弥陀如来坐像 歡喜寺
- 阿弥陀如来坐像 西大寺
- 阿闍如来坐像 西大寺

- 十一面観音菩薩立像 海住山寺
- 光背(二月堂本尊所用) 東大寺
- 十一面観音菩薩立像 勝林寺
- 十一面観音菩薩立像 新薬師寺
- 十一面観音菩薩立像 当館
- 十一面観音菩薩立像 薬師寺
- 千手観音菩薩立像 園城寺
- 観音菩薩立像 当館

- 宝冠阿弥陀如来坐像 當麻寺

- 大日如来坐像 十市町自治会
- 梵天立像 秋篠寺
- 救脱菩薩立像 秋篠寺
- 天部形立像 兵庫県
- 天部形立像 十市町自治会
- 龍猛菩薩立像 泰雲院
- 地藏菩薩立像 十市町自治会
- 明星菩薩立像 弘仁寺
- 地藏菩薩立像 大福寺
- 地藏菩薩立像 新薬師寺
- 准胝観音菩薩立像 文化庁
- 不動明王立像 正智院
- 大威徳明王騎牛像 当館
- 不動明王立像 当館

- 閻魔王坐像 金剛山寺
- 伽藍神立像 当館
- 地藏菩薩坐像 海住山寺
- 光背 当館
- 光背 個人
- 光背 当館
- 大将軍神坐像 大将軍八神社
- 善導大師坐像 念佛院
- 南無仏太子立像 当館
- 僧形神坐像 当館
- 女神坐像 当館
- 童子形坐像 当館

- 阿弥陀如来立像 西法寺
- 如来立像 個人
- 増長天立像 称名寺
- 十二神将立像(辰・未神) 室生寺
- 如来倚像(押出仏) 当館
- 観音菩薩立像(押出仏) 当館

名品展

珠玉の仏教美術

12月7日(土)～1月13日(月・祝)

〔絵画〕

- 草枕絵巻 当館
- 法隆寺金堂壁画模写 個人
- 法隆寺金堂飛天壁画復元模写 個人
- 新納忠之介筆 当館
- 玉虫厨子模写 桜井香雲筆 当館

〔書跡〕

- 慈円僧正懷紙 当館
- 大中臣親泰和歌懷紙(春日懷紙) 個人
- 中臣祐賢和歌懷紙(春日懷紙) 個人
- 策彦周良墨跡 探春 慈濟院
- 和漢朗詠集色紙帖 個人
- 禅院額字 前後 東福寺
- 清拙正澄墨跡 法語 当館
- 白隱慧鶴墨跡 中字 個人
- 写経手鑑 紫の水 当館
- 大般若経 卷第二百四十六 瑞光寺
- 〈長屋王願経〉 瑞光寺
- 大毘盧遮那成仏神变加持経 西大寺
- 〈吉備由利願経〉 卷第七 西大寺
- 大般若経 卷第四百四十八 当館
- 〈東大寺八幡経〉 当館
- 民部省符 当館
- 東大寺中興縁起 当館
- 連歌次第(応永十六～二十九年) 当館
- (染田天神講連歌関係資料) 染田区

〔考古〕

- 土偶(山形県杉沢遺跡出土) 当館
- 銅矛(愛媛県四国中央市出土) 当館
- 勾玉溶范(福岡県永原出土) 当館
- 勾玉砥石(奈良県三輪金屋出土) 当館
- ガラス勾玉・金製耳飾ほか 当館
- 〔奈良県泉屋古墳出土〕 当館
- 三角縁神獸車馬鏡・斜縁神獸鏡 当館
- 〔奈良県佐味田宝塚古墳出土〕 当館
- 碧玉製合子〔富岡鉄斎旧蔵〕 当館
- 劍菱形杏葉 当館
- 〔奈良県珠城山1号墳出土〕 当館
- 忍冬唐草文鏡板 当館
- 〔奈良県珠城山3号墳出土〕 当館
- 銅鏡・瑞花双鳳八稜鏡ほか 当館
- 〔奈良県雲安寺塔跡出土〕 当館
- 元興寺塔跡出土鎮壇具 元興寺

〔工藝〕

- 大神宮御正体 室生寺
- 秋草松喰鶴文円鏡 国(文化庁保管)
- 桐樹及鶴文鏡 熊野速玉大社
- 黒紫地蓮唐草文狩衣 奈良豆比古神社
- 琵琶 丹生都比売神社
- 二帯笙 談山神社
- 三鼓胴 手向山八幡宮
- 奚妻鼓胴 龍田大社
- 鼉太鼓縁 唐招提寺

名品展

中国古代青銅器(坂本コレクション)

青銅器館

中国古代の商(殷)から漢代に製作された、青銅器の逸品を展示しています。

※●＝国宝、○＝重要文化財

※展示品は都合により一部変更する場合がございます。

特集展示

新たに修理された文化財

12月24日(火)～令和2年1月13日(月・祝)

長い歴史を経て今に伝わる文化財は、多くが過去に人の手による修理を受けながら大切に保存されてきたものです。当館では、これらの文化財をさらに未来へと継承していくために、彫刻・絵画・書跡・工芸・考古の各分野の収蔵品（館蔵品・寄託品）について、毎年計画的に修理を実施しています。

本特集展示では、前年度までに修理された収蔵品の中から選りすぐった文化財を展示公開するものです。また、その修理内容についてもパネルで紹介いたします。



◎大和天神山古墳出土銅鏡(当館)修理の様子

【表紙解説】

礼服御冠残欠

一括
正倉院宝物 北倉

宝庫に伝来した冠の残欠類。その部材には、聖武太上天皇、光明皇太后、孝謙天皇が、天平勝宝四年（七五二）の東大寺大仏開眼会で着された冠に関連するものも含まれていると考えられている。金銀銅の飾り金具、珠玉類、漆沙など多様な部材を含み、とくに飾り金具に見る精緻な彫金など、当時一級の工人の関与もうかがわれる。写真は金製の葛形裁文と金銅製の鳳凰形で、「鈍金の鳳、金銀の葛形」などと記録に伝える光明皇太后の冠の装飾に通じるところがあるのは興味深い。

三本 周作（当館学芸部研究員）

もっと知りたい! 奈良博の魅力 秋の庭園を散策しませんか

奈良公園の隠れた名所、奈良博の庭園と茶室を当館ボランティアがご案内いたします。（茶室は外からご覧いただけます）

【日程】 11月23日(土・祝)、24日(日) [関西文化の日]

※雨天時や庭園の状態が悪い場合には中止

【案内時間】 13:00～16:00(15:30閉門)

【料金】 無料

※11月23日(土・祝)、24日(日)は関西文化の日のため、なら仏像館も無料でご覧いただけます。
※詳しくは、当館ホームページの「催し物」をご覧ください。



◆「奈良博プレミアムカード」 「国立博物館メンバーズパス」のご案内

平成29年4月より、当館を今まで以上にお楽しみいただける「奈良博プレミアムカード」「国立博物館メンバーズパス」を販売しております。

詳しい情報は、当館ホームページをご覧ください。当館観覧券売場へお問い合わせください。



◆奈良国立博物館賛助会

令和元年9月30日現在、特別支援会員4団体、特別会員4団体、一般会員(団体)17団体、一般会員(個人)73名のご入会をいただいております。

- 〔特別支援会員〕 (株)読売新聞大阪本社、結の会、(株)葉風泰夢、桃谷樓
- 〔特別会員〕 (株)奥村組西日本支社、(株)朝日新聞社、(株)ライブアートブックス、(株)ゴードー
- 〔団体会員〕 日本通運(株)関西西美術品支店、(株)尾田組、(株)伏見工芸、(株)木下家具製作所、(株)天理時報社、(株)きんでん奈良支店、ノブレスグループ、奈良信用金庫、ひかり装飾(株)、校倉な会、(株)南都銀行、小山(株)、医療法人社団成風会、金剛(株)、(株)グラスパウハンジャパン、(有)志津香、茶道裏千家淡交会奈良支部
- 〔個人会員(新規)〕 早瀬 彰一様 令和元年8月 ご入会
 峪口 治恵様 令和元年9月 ご入会
 安達 務様 令和元年9月 ご入会

◆キャンパスメンバーズ

令和元年9月30日現在、「キャンパスメンバーズ」会員の大学等は以下の通りです。

大阪大学・大阪大学歯学部附属歯科技工士学校、大阪大谷大学、関西学院大学・聖和短期大学・関西学院高等部、関西学院千里国際高等部、関西学院大阪インターナショナル、関西大学・関西大学第一高等学校・関西大学北陽高等学校・関西大学高等部、京都外国語大学・京都外国語短期大学、京都教育大学・京都教育大学附属高等学校、京都工芸繊維大学、京都女子大学・京都女子高等学校、京都精華大学、京都大学、京都橘大学、近畿大学文芸学部・近畿大学大学院総合文化研究科、嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学、四天王寺大学人文・社会学部、就実大学人文科学部、帝塚山大学、天理大学、同志社大学・同志社女子大学・同志社高等学校・同志社香里高等学校・同志社女子高等学校・同志社国際高等学校、奈良教育大学、奈良工業高等専門学校、奈良佐保短期大学、奈良女子大学、奈良先端科学技術大学院大学、奈良大学、佛教大学、立命館大学、龍谷大学・龍谷大学短期大学 (以上、五十音順)

❖ サンデートーク ❖

美術や歴史のこと、博物館の活動など、当館ならではの多彩なテーマ、日頃聞くことの出来ない「通(つう)」なお話をご用意して、皆様をお待ちしております。どうぞお気軽にご参加下さい。

■10月13日(日)「第7回 茶室・八窓庵をのぞいてみませんか」 吉澤 悟(当館学芸部列品室長)

奈良国立博物館の庭園にひっそり佇む八窓庵。江戸中期に建てられた織部好みの名茶室です。普段は見られない茶室の内部をご案内いたします。雨天の場合は講堂で写真解説いたします。

■11月24日(日)「東大寺戒壇院厨子扉絵をめぐって —追憶の天平仏画—」

谷口 耕生(当館学芸部教育室長)

鑑真和上の創建になる東大寺戒壇院に安置された華嚴経厨子には、梵天・帝釈天など秀麗な天部の姿を表した扉絵が描かれていました。原本が失われた後も各時代にわたって写し継がれた名画の魅力を紹介し、その天平の面影に迫ります。
※日程が変更となりました。

■12月15日(日)「古写真と仏像研究」

山口 隆介(当館学芸部主任研究員)

たった1枚の古写真が、仏像の知られざる歴史の一面を明らかにすることがあります。仏像研究における古写真の有用性について、近年の調査成果をふまえてお話しします。

■1月19日(日)「室町時代の“公務員”？」

—幕府官僚の実態に迫る—

佐藤 稜介(当館学芸部研究員)

将軍や管領、大名たちが華々しく活躍した室町時代。彼らの活躍も無数の幕府官僚に支えられてのことでした。幕府官僚、とくに奉行衆と呼ばれた文官たちにスポットライトを当て、その実態に迫ります。

■2月16日(日)「鏡を楽しむ」

中川 あや(当館学芸部主任研究員)

博物館・美術館で目にする機会が多い銅鏡ですが、見所や味わい方がよくわからない方は案外多いのではないのでしょうか。今回は古代から近世にかけての銅鏡の楽しみ方、こぼれ話などをお話したいと思います。

■3月15日(日)「旧帝国奈良博物館本館と片山東熊 —日本人建築家と日本近代建築の誕生—」

宮崎 幹子(当館学芸部資料室長)

明治28年(1895)に開館した帝国奈良博物館本館(現在のなら仏像館)の建物と設計者片山東熊を中心に、明治時代に誕生した日本人建築家と彼らが目指した近代建築についてお話しします。

【時 間】 各回とも14:00~15:30(13:30開場)

【会 場】 当館講堂

【定 員】 各回194名(先着順)

※聴講無料(聴講には入場整理券が必要です)

※当日12:30から当館講堂前にて入場整理券(お1人様につき1枚)を配布します。

※入場受付はトーク開始後30分で終了いたします。

❖ ボランティア解説 ❖

■「正倉院展のみどころ」

正倉院展の会期中、当館ボランティアがスライドを使用し、展示のみどころを分かりやすく解説いたします。ご鑑賞にあわせてぜひお立ち寄りください。

【日 時】 「御即位記念 第71回正倉院展」会期中、毎日

①10:00~ ②11:00~ ③13:00~ ④14:00~

※ただし、11月2日(出)、11月4日(月・祝)、11月9日(出)は公開講座等のため、③④の回は中止となります。

【所要時間】 約30分

【会 場】 当館講堂(各回20分前より開場)

※満席になり次第締切とさせていただきます。

【定 員】 先着194名(事前申し込み不可)

※聴講は、当日正倉院展へ入館中の方に限らせていただきます。

❖ 第71回正倉院展 特別講演会 ❖

11月4日(月・振休)「遺愛とその輝き」

中西 進 氏(高志の国文学館館長)

【時 間】 13:30~15:00(13:00開場)

【会 場】 当館講堂

【定 員】 194名(申込先着順)

【申込方法】

◆往復はがき

往信用はがきに[特別講演会聴講希望]と明記の上、[①氏名 ②ふりがな ③郵便番号 ④住所 ⑤電話番号 ⑥性別 ⑦年齢]をご記入ください。返信用はがきには宛名・住所をご記入ください。(10月1日(火)の郵便料金変更に伴い、往復はがきの料金は126円になります。往復ともに額面が63円になるようご確認の上、お送りください。)

◆ホームページ応募フォーム

奈良国立博物館ホームページ「講座・催し物」内の「第71回正倉院展 特別講演会」申込み画面より必要事項を入力の上、お申込みください。

【受付期間】10月7日(月)~10月28日(月)必着

(ホームページは10月7日(月)10:00~10月28日(月)17:00)

※聴講無料(ただしご入場の際には、①正倉院展の観覧券[半券可。または奈良博プレミアムカード等]、②受付完了はがきもしくはウェブ申込みの受付完了画面をご提示ください)

※応募はいずれかの方法で、お1人様1回でお願いいたします。

❖ 第71回正倉院展 公開講座 ❖

11月2日(出)「正倉院に伝わる作り物をめぐって

—仮山残欠を中心に—」

清水 健(当館学芸部工芸考古室長)

11月9日(出)「正倉院の風鐸—金銅鎮鐸について—」

細川 晋太郎 氏(宮内庁正倉院事務所保存課調査員)

【時 間】 13:30~15:00(13:00開場)

【会 場】 当館講堂

【定 員】 194名(先着順)

※聴講無料(聴講には入場整理券が必要です)

※当日12:00から講堂前にて、入場整理券(お1人様につき1枚)を配布します。

※入場整理券の受取の際には、正倉院展の観覧券[半券可。または奈良博プレミアムカード等]をご提示ください。

※入場受付は講座開始後30分で終了いたします。

❖ 正倉院学術シンポジウム2019 ❖

■「即位と正倉院宝物」

【日 時】 11月3日(日・祝) 13:00~17:30(12:30開場)

【会 場】 東大寺総合文化センター 金鐘ホール

【定 員】 250名(申込先着順)

【申込方法】

◆往復はがき

往信用はがきに[正倉院学術シンポジウム参加希望]と明記の上、[①氏名 ②ふりがな ③郵便番号 ④住所 ⑤電話番号 ⑥性別 ⑦年齢]をご記入ください。返信用はがきには宛名・住所をご記入ください。(10月1日(火)の郵便料金変更に伴い、往復はがきの料金は126円になります。往復ともに額面が63円になるようご確認の上、お送りください。)

◆ホームページ応募フォーム

奈良国立博物館ホームページ「講座・催し物」内の「正倉院学術シンポジウム2019」申込み画面より必要事項を入力の上、お申込みください。

【受付期間】 10月7日(月)~10月28日(月)必着

(ホームページは10月7日(月)10:00~10月28日(月)17:00)

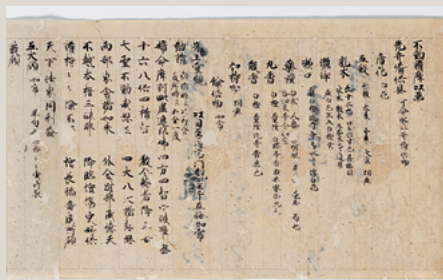
※参加費無料(ただしご入場の際には、①正倉院展の観覧券[半券可。または奈良博プレミアムカード等]、②受付完了はがきもしくはウェブ申込みの受付完了画面をご提示ください)

※応募はいずれかの方法で、お1人様1回でお願いいたします。

展示品の
みどころ

ふ どう ご ま し だ い
不動護摩次第

紙本墨書
縦28.3cm
長1006.1cm
鎌倉時代(13世紀)
当館

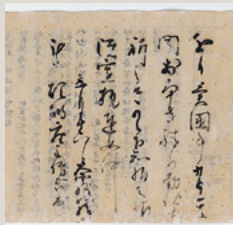


ごまほう
護摩法を修するときの手順書。『護摩次第』と称される手順書は複数の系統が存在するが、本品は、平安時代後期の真言僧・興然によって撰述された『不動護摩次第』の写本である。この一巻には、『不動護摩次第』のほか、『不動法』の内題を持つ儀軌が取められ、建保5年(1217)2月、醍醐寺座主であった成賢が後鳥羽上皇のためにこれらの修法を行った際の報告も書き込む。護摩壇上の法具の配置などは図像を添えて説明しており、これらの図像は、円の中心や矩形の四隅に作図の際の針穴が観察されるなど、簡略ながら丁寧に描かれる。

ところで、本品の紙背には、鎌倉時代後期と推定される19点の文書が残される。多くが断簡ではあるものの、異国調伏祈禱を醍醐寺に命じる院宣の写しや、「後正月」の日付を持つ私信などが含まれており、本品の書写年代を窺わせる重要な手がかりであるとともに、歴史研究の資料としても有用である。

なお本品は、虫損などによる傷みが大きかったため、昨年4月より1年間の解体修理が施された。補修の技にもご注目いただきたい。

佐藤 稜介(当館学芸部研究員)



紙背文書(第五紙)

◆12月24日~1月13日 特集展示「新たに修理された文化財」にて展示

ほうりゅうじこんどうへきが
法隆寺金堂壁画
しゃしんげんぼん
写真ガラス原板のうち
だいごうへきぼさつぞう
第2号壁 菩薩像

重要文化財
ガラス乾板
縦61.0cm 横45.6cm
昭和10年(1935)撮影
奈良 法隆寺

げじん
法隆寺金堂の外陣に描かれた大小12面の壁画は、昭和9年(1934)から始まった金堂の修理にともなって原寸大分割写真の撮影がおこなわれた。壁画の保存は明治時代以来つねに大きな課題だったが、まずは詳細な記録の作成が目指されたのである。

アジャンター石窟や敦煌莫高窟の壁画にならび称されるこの上代絵画の傑作は、鉄線描といわれる、仏菩薩をかたどる肥瘦のない強く引き締まった描線が称賛されることが多い。

しかし写真を丁寧に観察してゆくと、菩薩の地髪や蓮の花の蕊にみられるような、まさに髪の毛ほどの細さの情感さえ湛えた柔らかい筆使いに魅了される(部分写真)。昭和24年(1949)1月26日の早朝、予期せぬ金堂の火災によって壁画は甚大な損傷を被り、表面の彩色は著しくそこなわれた。しかし写真に残された焼損前の諸尊の姿は、東アジア仏教美術の至宝としてのかけがえのない価値をいまに伝えている。



ポジ(陽画)に反転させた部分写真

宮崎 幹子(当館学芸部資料室長)

◆12月7日~1月13日 特別陳列「重要文化財 法隆寺金堂壁画写真ガラス原板—文化財写真の軌跡—」にて展示

開館日時(10月~12月)

- 開館時間 / 午前9時30分~午後5時
- ・名品展 特別陳列・特集展示は、金・土曜日は午後8時まで(12月28日は除く)。
- ・「第71回正倉院展」会期中、月~木曜日は午前9時~午後6時、金・土・日曜日、祝日は午前9時~午後8時。
- ・12月17日は午後7時まで
- ※いずれも入館は閉館の30分前まで

- 休館日 / 毎週月曜日
- ・10月14日・28日、11月4日・11日、12月30日は開館し、10月15日(火)、1月1日(火)は閉館。
- ・正倉院展の会期中については無休。

■観覧料金 名品展・特別陳列・特集展示

	一般	大学生	高校生以下
個人	520円	260円	無料
団体	410円	210円	無料

- ※団体は20名以上です。
- ※高校生以下および18歳未満の方、満70歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。
- ※奈良国立博物館キャンパス(メンバーズ加盟校)の学生の方は無料です。
- ※高校生以下および18歳未満の方と一緒に観覧される方は、団体料金を適用します(親子割引)。

★無料観覧日 /

11月14日(休)(御即位記念)、11月23日(土・祝)・24日(日)(関西文化の日)、12月17日(火)(おん祭お渡り式)

■観覧料金 「御即位記念 第71回正倉院展」

	一般	高校・大学生	小・中学生	親子ペア
個人(当日)	1,100円	700円	400円	
団体・前売	1,000円	600円	300円	1,100円(前売のみ)
オータムレイト	800円	500円	200円	

- ※観覧券は当館観覧券売場のほか、主要プレイガイド、近鉄主要駅、旅行代理店(一部)等で販売します。
- ※団体は20名以上です。 ※前売券の販売は10月25日(金)までです。
- ※親子ペア観覧券は、一般1名と小・中学生1名がセットになった割引観覧券です。前売のみの取り扱いとなります。
- ※オータムレイトチケットは、閉館の1時間30分前から入場できる当日券です(当館当日券売場のみで、閉館の2時間30分前から販売します)。
- ※障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。
- ※奈良国立博物館キャンパス(メンバーズ加盟校)の学生の方は当日券を400円で、職員の方は団体料金でお求めいただけます。
- ※この料金で、名品展(なら仏像館・青銅器館)も観覧できます。



[交通案内] 近鉄奈良駅下車徒歩約15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅から奈良交通「市内循環」バス(外回り)「氷室神社・国立博物館」下車

※当館には駐車スペースがございませんので最寄りの県営駐車場等(有料)をご利用ください。

奈良国立博物館
Nara National Museum

〒630-8213 奈良市登大路町50(奈良公園内) ハローダイヤル 050-5542-8600 ホームページ <https://www.narahaku.go.jp/>

「奈良国立博物館だより」は、1・4・7・10月に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し、返信用封筒を同封して、当館の情報サービス室にお申し込みください。 ※返信用封筒には宛名を明記し、長形3号の場合は94円切手を、角形2号の場合は120円切手を貼付してください。 ※10月1日より郵便料金が一部変更になっております。